

環境対応 1000BASE-T/X SFP 対応産業用メディアコンバータ

DN1400Eシリーズ (Rev. A以降)

取扱説明書

ご使用の前に必ずお読み下さい。

製品仕様はHP上の仕様書を参照下さい。

安全にご使用いただくために(使用上の一般的注意事項)

指定用途以外には使わないで下さい！

100BASE-TX の光変換以外の用途にはお使いにならないで下さい。
また仕様の項目を超えない範囲でお使い下さい。

分解しないで下さい！

取付けてあるカバー類は取り外さないで下さい。分解された場合は一切の保証をいたしません。

製品は大事に扱って下さい！

誤って落としたり、ぶつけたりしますと製品の性能を低下させますので十分にご注意下さい。

異常が起きたら直ちに使用中止！

使用上、煙・臭い・発火などの異常に気がついた場合には、直ちに使用をやめ点検・修理に出して下さい。

条例に従って産業廃棄物として廃棄して下さい！

本装置を廃棄するときは、地方自治体の条例に従って産業廃棄物として処理して下さい。

電波障害自主規制について！

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスA情報技術装置です。
この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

本製品のご使用にあたって！

本製品は、人命に関わる場合(医療、航空、原子力、軍事等)や高度な安全性や信頼性を必要とするシステムへの使用または機器組込みでの使用を意図した設計および製造は行っておりません。

従いまして、これらのシステムへの使用や機器に組み込んで本製品が使用されることによって、お客様もしくは第三者に損害が生じても、かかる損害が直接的、間接的または付随的なものであるかどうかにかかわらず、弊社は一切の責任を負いません。

お客様の責任におきまして、このようなシステムへの使用または機器に組み込んで使用する場合には、使用環境や条件等に充分配慮し、システムの冗長化などによる故障対策や、誤動作防止対策などの安全性・信頼性の向上対策を施すなどご注意願います。

大電株式会社



警告

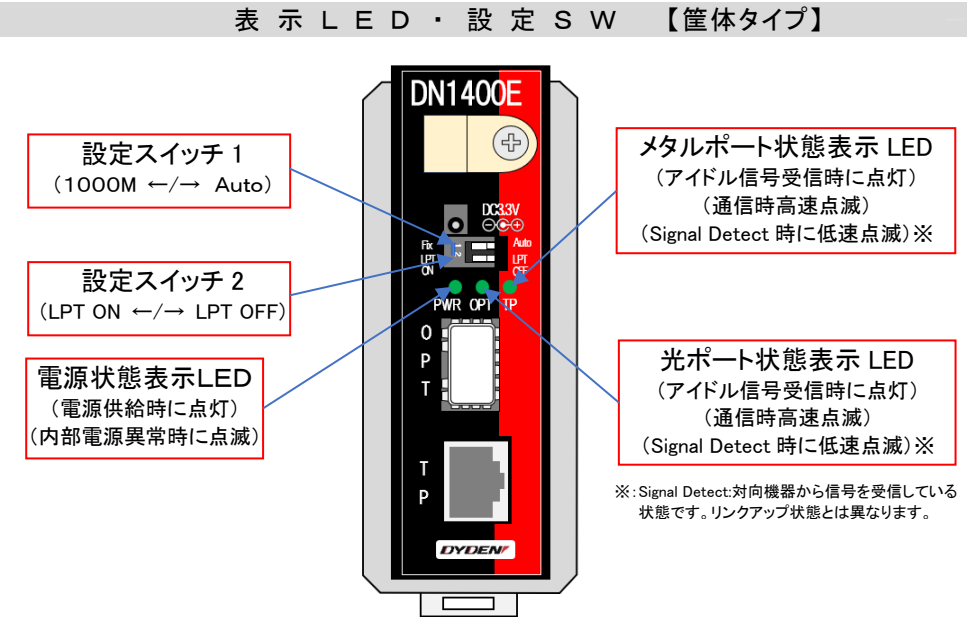
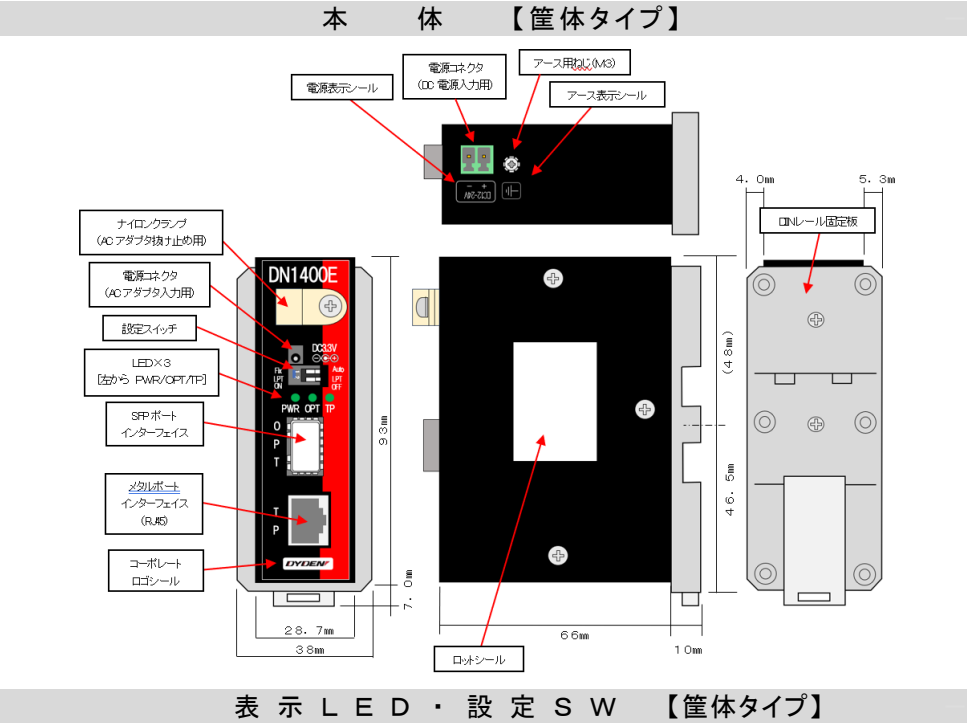
- ・ **DC電源接続時はブレーカをOFFしてから行って下さい。**
電源の短絡事故や火災、感電を招く恐れがあります。
- ・ **DC電源の接続が相応の訓練を受けた人が行って下さい。**
電源の短絡事故や火災、感電を招く恐れがあります。
- ・ **指定の電圧以外で使用しないで下さい。**
指定電圧以外で使用すると火災や感電、故障の原因となります。
- ・ **AC アダプタを使用する場合は専用のものを使用して下さい。**
火災や感電、故障の原因となります。。
- ・ **アース線を必ず接続して下さい。**
アース線を接続しないと感電の原因となります。
- ・ **水につけたり、水をかけたりしないで下さい。**
漏電による火災や感電、故障の原因となります。
- ・ **浴室や加湿器のそばなど湿度の高い所では使用しないで下さい。**
漏電による火災や感電、故障の原因となります。
- ・ **静電気注意！**
本製品は、静電気に敏感な部品を使用しています。静電気による故障・誤動作を防ぐため、製品に触れる前には除電を行って下さい。



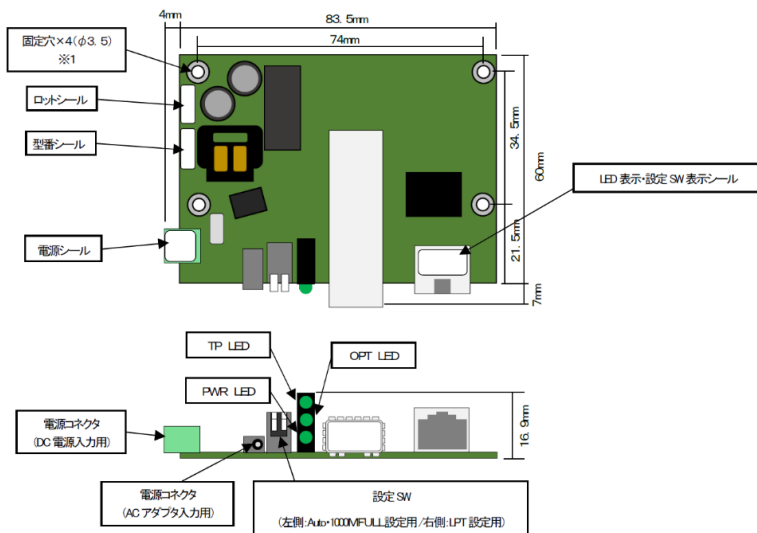
注意

- ・ **電源コネクタを抜くときは、電源コネクタをもって抜いて下さい。**
電源コードを引っ張るとコードの損傷が発生し火災や感電の原因となることがあります。
- ・ **アース線の接続及び取り外しをする場合は、電源コネクタを取外して下さい。**
電源を接続した状態でアース線の接続や取り外しをすると感電や故障の原因となることがあります。
- ・ **濡れた手で製品に触れないで下さい。**
故障や感電の原因となることがあります。
- ・ **本装置をストーブなどの熱器具のそばに置かないで下さい。**
ケーブルの被覆が溶けて火災や感電の原因となることがあります。
- ・ **本装置を直射日光の当たる所や温度の高い所で使用しないで下さい。**
内部の温度が上がり火災や故障の原因となることがあります。
- ・ **本装置の隙間に針金や金属物などの異物を入れないで下さい。**
内部に触れ感電やけが、故障の原因となることがあります。
- ・ **本装置をほこりの多い所や油煙のあたる所で使用しないで下さい。**
火災や故障の原因となることがあります。
- ・ **本装置を不安定な場所または振動や衝撃の多い場所に置かないで下さい。**
落下などにより、けがや故障の原因となることがあります。
- ・ **本装置はクラス1レーザ製品です。(対象:SFP モジュール)**
SM ファイバ用 SFP や 1000BASE-X 用 SFP はクラス1レーザを使用しており、クラス1レーザは合理的に予知可能な運転条件で安全であるレーザです。
- ・ **光コネクタ清掃のお願い。**
本機は光ファイバとの接続に光コネクタを経由して光信号を伝送しています。光コネクタが埃等で汚れていた場合、正常に光信号を伝送できないだけでなく、光トランシーバ内に汚れが付着し、簡単に清掃ができなくなりますので必ず光コネクタ清掃後に接続頂くようお願いします。

1. 装置各部の説明／付属品



本 体 【基板タイプ】

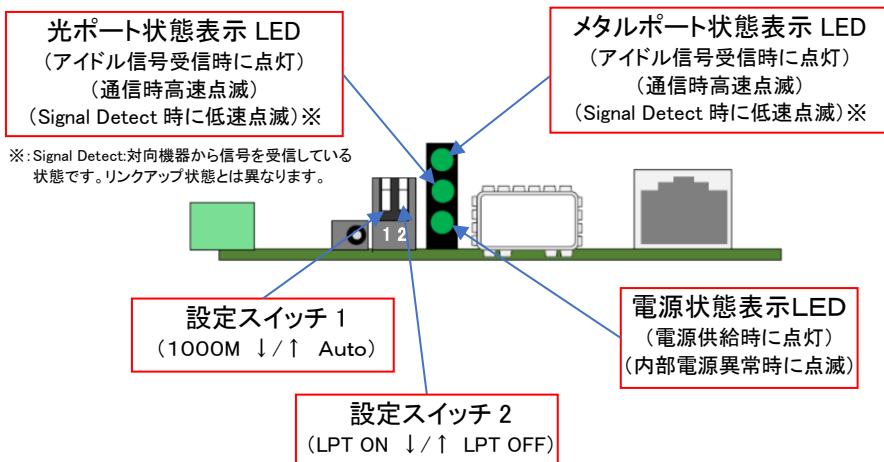


※1:4ヶ所全ての固定穴が同電位となるように固定し、圧着端子等を取付けたアース線を接続して下さい。

※基板タイプを取扱う際は、除電等の静電気対策を施した状態で実施して下さい。静電気等で破壊される可能性があります。

※本装置はクラス1レーザ製品(対象:SFP モジュール)ですので、【基板タイプ】はお客様自身で警告表示を行って下さい。

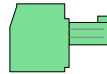
表 示 L E D ・ 設 定 S W 【基板タイプ】



付 属 品

(端子台ブロック[2 極])・・・DC電源の入力配線に使用します。

※出荷時に本体の電源コネクタ(DC 電源入力用)部に装着しています。(1個)



(DIN レール固定板)・・・本体を DIN レールに固定する場合に使用します。

【筐体タイプのみ】

※出荷時に M3 固定ねじ 2 本で本体に取り付けられています。(1枚)

(ナイロンクランプ)・・・AC アダプタの電源コード抜け防止用のクランプです。

【筐体タイプのみ】

※出荷時に M4 固定ねじ 1 本で本体に取り付けられています。(1個)

電 源 コ ネ ク タ ピ ン 配 置



1 2

端子番号	名称・極性	電圧
1	V +	DC12-24V
2	V -	

別 売 品

下記部材については、添付していませんので別にご準備下さい。

・ツイストペアケーブル:

TIA/EIA-568-B に適合するエンハンスドカテゴリー5以上の UTP/STP ケーブルに RJ-45 モジュラーコネクタを結線したものをご使用下さい。

※モジュラーコネクタはストレート結線、クロス結線のどちらでも使用できます。

※UTP/STP ケーブルは 100m 以下の長さでご使用下さい。

※モジュラーコネクタの結線はフル結線(8 ピン全て結線)品を使用して下さい。

・SFP モジュール:

SFP MSA 規格に準拠した SFP モジュールをご使用下さい。

DMI 機能付きの SFP を使用する場合でも SFP モジュールの監視はできませんが、通信は可能です。当社のラインアップ品と組み合わせ時のみ動作保証致します。

ただし、1000BASE-T 用の SFP は使用できません。

当社のラインアップ品であっても以下に記載のない SFP モジュールは使用できません。

・2心: AXGD-5854-0512(1000BASE-SX)、AXGD-1354-0533(1000BASE-LX)

・1心: AXGD-1654-0583(1000BASE-X/中距離)、

AXGD-3754-0583(1000BASE-X/中距離)

なお、温度保証の点から当社の SFP を使用することをお勧めします。

・コネクタ付光コード:

SFP 仕様に適合したファイバ付きコードをご使用下さい。

・電源コード:

電源入力配線には、AWG24~AWG16(0.2mm²~1.5mm²)の電線をご使用下さい。

・アース線:

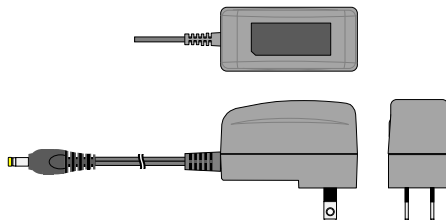
公称断面積 0.75mm² 以上のビニル絶縁電線(IV)等に圧着端子を取付けてご使用下さい。

オ プ シ ョ ン 販 売 品

・AC アダプタ:

専用の AC アダプタを使用することで AC 電源環境下にて使用することができます。

(品名: DNACAE-DVE...AC100V 用)

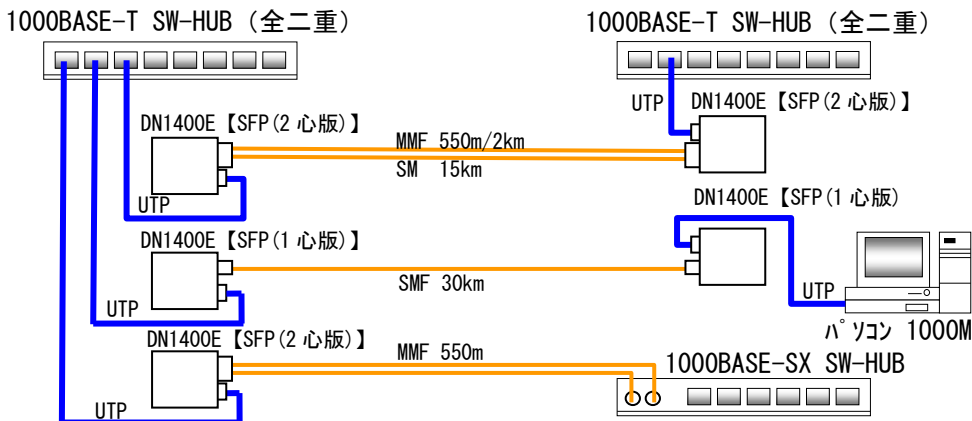


2. 概要

本製品はUTP/STPによる1000BASE-Tの信号をSFPにて光信号(1000BASE-X)に変換するメディアコンバータです。なお、1000BASE-用のSFPは使用できません。

ネットワークの通信媒体であるツイストペア線を光に変換することで屋外へのリンクセグメントの配線を可能にします。

本製品は、半二重通信方式には対応していないので、全二重対応の機器(SW-HUB, Router, NIC)との接続でご使用下さい。



【リンク連動機能について】

本装置にはリンク連動(以下LPT)機能があります。LPT機能とは、メディアコンバータ(以下MC)で受信のリンク断を検出した場合にMCの送信をOFFにする機能です。

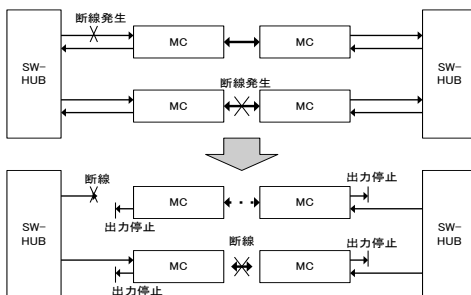
この機能により、MCを挟んで対向するSW-HUB間等の伝送路が切断されたときなど、両方のSW-HUBが伝送路の切断を認識できます。例えばSW-HUBのマルチポートランキング機能を伝送路のバックアップとして使う場合、この機能がないと断線時などに正常な伝送ができない場合があります。

この機能は光部Autonegotiation信号を用いて実現しているため、SW1は右側(Auto)設定時にしか有効になりませんので、リンク連動機能を有効にする場合は、SW1を右側、SW2を左側に設定します。なお、SW1が左側(1000M固定)設定時は、SW2の設定に依らず必ずLPT機能はOFFとなります。

※対向機器の仕様(1000BASE-T側機器で1000BASE-T Half Duplex サポート情報を送信する製品)はリンクアップしない場合があります。

※リンク連動設定で Back To Back 接続や、光⇄UTP⇄光接続しますとリンクアップしませんがリンク連動では使用できません。

※あらかじめ相互接続試験を行うことをお勧めします。

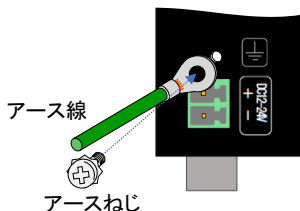


3. 種々の接続

端子台ブロックへの電源コード取付け

手順①: アース線の接続【筐体タイプのみ】

圧着端子等を取り付けたアース線を
本体のアース端子に接続して下さい。



手順②: 電源コードの配線

①DC 電源ラインの回路ブレーカを遮断し、電気が流れない状態にして下さい。

②電源コードの被覆を約 6～8mm 剥ぎ取り、導体を口出して下さい。



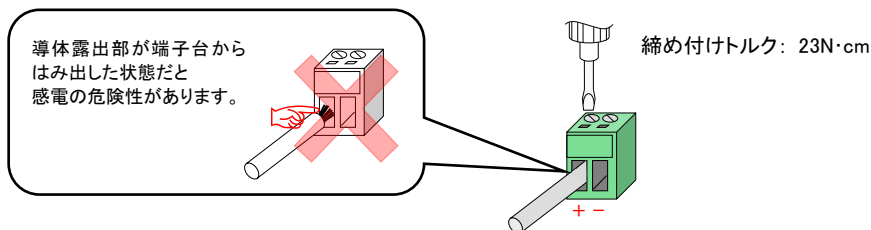
※導体部に予備ハンダをしないで下さい。
接触不良の原因となります。

③電源コードを端子台ブロックの奥まで差込み、マイナスドライバーなどの工具を使って上部のねじを締め付けて下さい。

※プラス側とマイナス側の極性を間違わないように注意して下さい。

※端子台ブロックに過度の応力が加わらないようにして下さい。

端子台ブロックが本体の電源コネクタから抜ける可能性があります。



<端子台ブロックから電源コードの取外し>

マイナスドライバーなどの工具を使って、固定ねじを緩め、電源コードを引抜きます。

本 体 電 源 コ ネ ク タ へ の 取 付 け

- ①端子台ブロックを本体の電源コネクタに、奥まで確実に差込んで下さい。
※端子台ブロックの細い部分が見えなくなるまで差込んで下さい。

<本体の電源コネクタから端子台ブロックの取外し>

- ①端子台ブロックを両側からはさみ、取外して下さい。

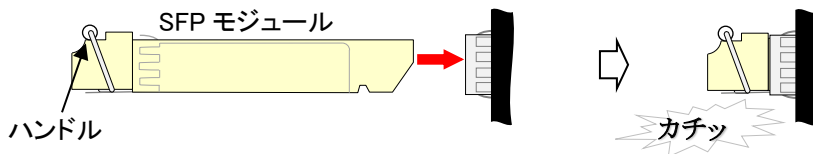
A C ア ダ プ タ (オ プ シ ョ ン) の 接 続

- ①抜け防止を行う場合、図のようにクランプに DC コードを 1 回巻付け、DC プラグを本体正面の DC ジャック部に接続して下さい。
※DC プラグが入らなくなるまで押込んで下さい。
※クランプは【基板タイプ】には付属していません。
お客様にて抜け止めの機構をご準備ください。
- ②電源プラグ(ACアダプタの本体部)を AC コンセントに確実に差込んで下さい。
※AC アダプタは専用のものをお使い下さい。

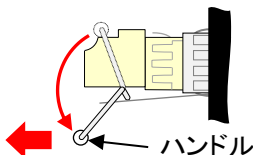


S F P モ ジ ュ ー ル の 接 続

- ①SFP をスロットに差し込み「カチッ」と音がするまで確実に差し込んで下さい。
なお、差し込む際にはハンドルを上げた状態で差し込んで下さい。



- ②SFP モジュールを取り外すときは、まず光ケーブルを取り外して下さい。
- ③SFP のハンドルを下げてスロットへの固定を解除します。
- ④SFP 本体を持って引き抜いて下さい。
注: SFP モジュールは高温になっている場合がありますので作業時は十分注意して下さい。



光コネクタの接続

当社ラインナップ品 SFP に適用します。

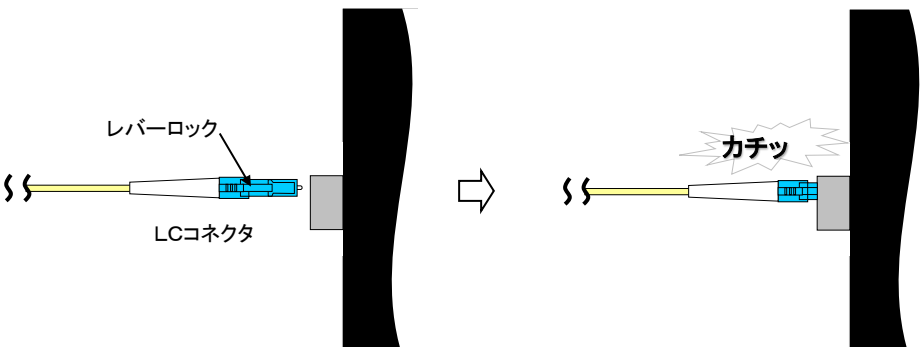
【OPTポートが1心用の場合】

- ① 対向側に同じシリーズの波長違いが接続されていることを確認し、本体に LC コネクタを接続して下さい。

※接続可能な SFP の型番等の情報に関しては当社の SFP の仕様書を参照下さい。

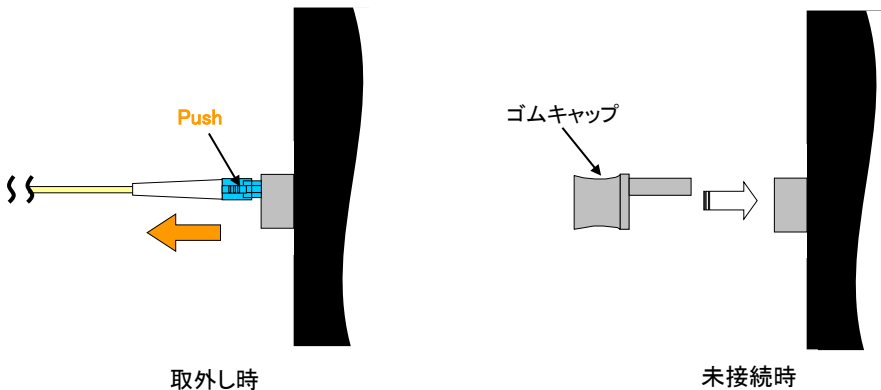
※光ファイバにねじれや無理な張力が加わらないように注意し、ファイバの許容曲げ半径を確保して下さい。

- ② LC コネクタのレバーロックが「カチッ」と音がするまで確実に差込んで下さい。



※LC コネクタを取外す際には、レバーロックのつまみ部を押した状態でコネクタを引抜いて下さい。ロックされた状態で無理に引抜くと、コネクタや装置を破損する恐れがあります。

※光コネクタを接続していない時には、ゴミなどが入らないように必ず付属のゴムキャップを取付けて下さい。



【OPTポートが2心用の場合】

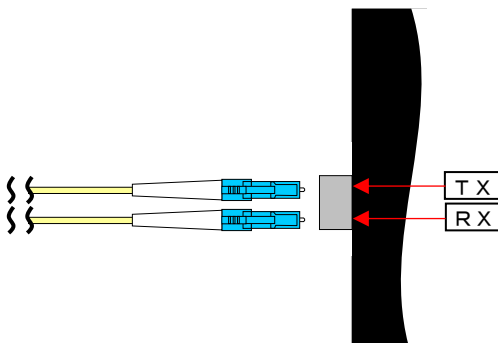
- ① 対向側に規格準拠機器（もしくは相互接続性のあるシリーズの機器）が接続されていることを確認し、本体に LC コネクタを接続して下さい。

※接続可能な SFP の型番等の情報に関しましては当社の SFP の仕様書を参照下さい。

※対向側の TX 部と本体側の RX(本体下側)部、対向側の RX 部と本体側の TX(本体上側)部と接続して下さい。

※光ファイバにねじれや無理な張力が加わらないように注意し、ファイバの許容曲げ半径を確保して下さい。

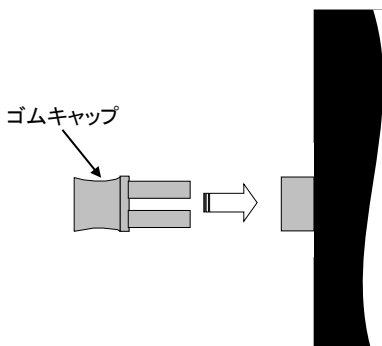
- ② LC コネクタのレバーロックが「カチッ」と音がするまで確実に差込んで下さい。



※LC コネクタを取外す際には、レバーロックのつまみ部を押した状態でコネクタを引抜いて下さい。ロックされた状態で無理に引抜くと、コネクタや装置を破損する恐れがあります。

※LC コネクタの取付け取外しは、1 心用と同じです。

※光コネクタを接続していない時には、ゴミなどが入らないように必ず付属のゴムキャップを取付けて下さい。

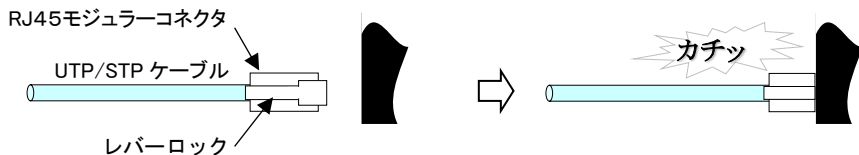


未接続時

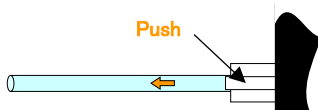
U T P ケ ー ブ ル の 接 続

- ①RJ-45 モジュラーコネクタを取付けた UTP/STP ケーブルを、本体のモジュージャックに接続して下さい。

※モジュラープラグのレバーロックが「カチッ」と音がするまで確実に差込んで下さい。



※モジュラーコネクタを取外す際には、レバーロック部をモジュラーコネクタに押し当てた状態のままコネクタを引抜いて下さい。ロックされた状態で無理に引抜くと、モジュラーコネクタやメディアコンバータ本体を破損する恐れがあります。



4. 接続状態の確認

電源の確認

本体の電源コネクタへ接続し準備が整えば、電源のブレーカを ON にし、本体の「PWR」LED が緑色に点灯していることを確認して下さい。

※電源スイッチをONにする前に、供給電圧が仕様範囲内であるか、極性が間違っていないかを確認することをお勧めします。

注)仕様電圧範囲を超える電圧を印加すると故障する可能性があります。

・入力仕様範囲:DC10.2V～DC28.8V

UTP/STP ケーブルの確認

UTP/STP ケーブルを 1000BASE-T 対応の機器 (パソコンやルーター、スイッチングハブ等) に接続し、本体の「TP」LED が緑色に点灯 (もしくは点滅) することを確認して下さい。

※UTP/STP を介して接続されている装置の電源が投入されていない場合には確認できません。

※LPT-ON 設定時には、対向側のメディアコンバータ及びそれぞれ UTP/STP で接続した機器全ての電源が投入され、且つ正常に配線していないと確認できません。

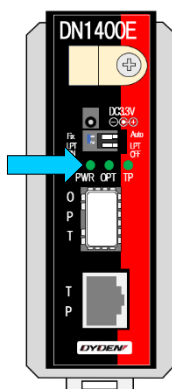
光ケーブルの確認

光側対向機器と光ファイバを接続した状態で本体の「OPT」LED が緑色に点灯 (もしくは点滅) することを確認して下さい。

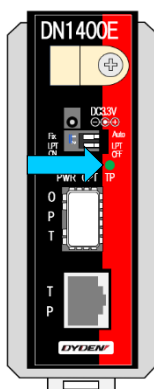
※光ケーブルを介して接続されている装置の電源が投入されていない場合には確認できません。

※LPT-ON 設定時には、対向側のメディアコンバータ及びそれぞれ UTP/STP で接続した機器全ての電源が投入され、且つ正常に配線していないと確認できません。

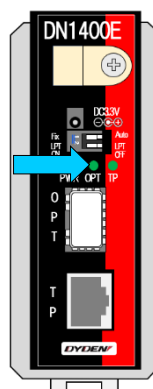
電源の確認



UTP/STP ケーブルの確認



光ケーブルの確認



5. SWの設定及び注意

SW の 設 定

- ①対向機器（光部）が Autonegotiation 設定で LPT 動作が必要な時は設定 SW1を右側、設定 SW2を左側にして下さい。
- ②対向機器（光部）が 1000M・全二重固定設定の時は設定 SW1を左側にして下さい。
（設定 SW2の設定を問わず LPT は動作しません）
- ③対向機器（光部）が Autonegotiation 設定で LPT 動作が不要な時は設定 SW1を右側、設定 SW2を右側にして下さい。（出荷時はこの設定です）

※SW の設定が難しい場合は、シャープペン等の先の細いものを用いて切替えて下さい。
※LPT-ON 設定時は、UTP/STP 対向側の機器と同じ設定でもリンクアップしない場合がありますのでその時は全二重でリンクアップする設定の組み合わせでご使用下さい。

設 定 時 の 注 意

- ①光部対向側の機器が Autonegotiation 設定（LPT-ON 設定時含む）時には必ず本装置の設定を Autonegotiation（LPT-ON 設定時含む）設定にして下さい。
※設定が異なる場合はリンクアップしなかったり、通信異常が発生する可能性があります。
- ②LPT-ON 設定時は対向接続したメディアコンバータの設定も LPT-ON 設定にして下さい。
※設定が異なるとリンク異常状態を伝えることができなくなるため LinkAggregation 等のトラッキング用途で正常に動作しない可能性があります。
- ③UTP/STP 側対向側の機器に 1000M をサポートしていない機器を接続しないで下さい。
※接続した場合は正常に動作しません。

6. 装置の取付

設 置 方 法

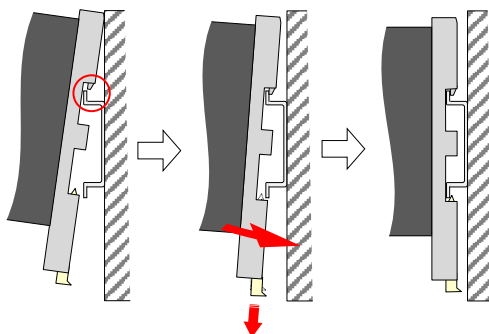
本装置の設置方法は、DIN レール固定となります。

DINレールへの着脱

【取付け】

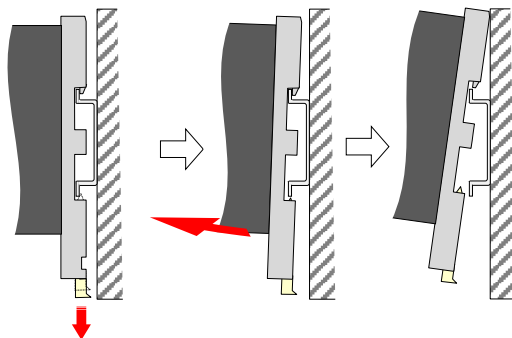
固定板の爪部をDINレール上端に引っ掛けて、スライドを引き下げた状態でDINレールに押し込んでからスライドを戻して下さい。

※取付後は確実に固定されていることを確認して下さい。



【取外し】

固定板のスライドを引き下げた状態にして引き上げます。



7. こんな時は

故障かなと思った場合には修理を依頼する前に確かめて下さい。

PWR LED が点灯しない

確認①: DC 電源のブレーカは ON になっていますか？

確認②: 電源端子台ブロックは電源コネクタにきちんと根元まで接続されていますか？

TP LED が点灯しない

確認①: モジュラーコネクタは確実にロックされていますか？

確認②: 接続相手機器の電源は入っていますか？

確認③: ケーブルは全て接続していますか？

リンク連動 (LPT-ON) 設定にしている場合には TP 側と光側が両方ともリンク確立する状態にならないとリンクアップしません。

確認④: 接続相手の機器の設定は「Autonegotiation」もしくは「1000M・全二重」になっていますか？

本装置は 1000M・全二重でしか動作しません。Autonegotiation に対応していますが、ごくまれに Autonegotiation の失敗により接続相手の機器が 1000M・Half Duplex Mode 設定になる機器があります。その時は接続相手の機器を 1000M・全二重設定に変更して、再度モジュラーコネクタを抜き差しして下さい。

確認⑤: UTP/STP ケーブルが断線や異常損失を起こしていませんか？

代替りの UTP/STP ケーブルで接続してみてください。

確認⑥: 低速点滅していませんか？

対向機器から信号を受信している Signal Detect 状態になっています。リンクアップできる状態になっていないため TP ポートの状態および設定、UTP/STP ケーブルの接続状態をご確認下さい。LPT-ON 設定時には OPT ポートの設定、光ケーブルの状態もご確認下さい。

確認⑦: リンク状態が不安定ですか？

RJ-45 コネクタのプラグ部不良の可能性があります。プラグ部を入れ替える等して確認下さい。

OPT LED が点灯しない

確認①: SFP はきちんと根本まで接続されていますか？

確認②: 光コネクタの端面は汚損がなく確実にロックされていますか？

コネクタの端面を清掃し、再度光コネクタを差込んで下さい。汚損した光コネクタを接続し、清掃を行っても改善されなかった場合には汚れが光トランシーバ内に付着している可能性がありますので光トランシーバ内の清掃を行って下さい。
(清掃が不可能な場合は一旦返却下さい)

確認③: 接続相手機器の電源は入っていますか？

確認④: ケーブルは全て接続していますか？

リンク連動 (LPT-ON) 設定にしている場合には TP 側と光側が両方ともリンク確立する状態にならないとリンクアップしません。

確認⑤: 光ケーブルが断線や異常損失を起こしていませんか？

1 心用タイプの SFP は $1.3\mu\text{m}$ および $1.5\mu\text{m}$ の波長帯を用いた光伝送を行いますので、光伝送路はいずれの波長帯においても光許容損失内である必要があります。

確認⑥: 低速点滅していませんか？

対向機器から信号を受信している Signal Detect 状態になっています。リンクアップできる状態になっていないため OPT ポートの状態および設定、光ケーブルの接続状態、実装している SFP の対応速度状態をご確認下さい。LPT-ON 設定時には TP ポートの設定、UTP/STP ケーブルの状態もご確認下さい。

通信エラーが発生する

確認①: 光コネクタ及び光モジュール内の端面は汚損がないですか？

コネクタの端面及び光モジュール内部を清掃し、再度光コネクタを差込んで下さい。

光レベルが問題なくとも、光内に異物が存在していると、反射が発生しエラーが発生する可能性があります。

特定の packets だけ通信できない

確認①: 10001Byte 以上の packets ではないですか？

本製品の伝送可能なフレーム長は 10000Byte 迄となっています。ショート packets (63Byte 以下) や 10001Byte 以上のロング packets は正常に伝送できない場合がありますので、ご使用の packets 長をご確認下さい。

※LPT-ON 設定時にリンクアップしない場合は、設定 SW1 を Fix (1000M 固定)、設定 SW2 を LPT-OFF に切り替えてみて下さい。それでもリンクアップしない場合は伝送路及び対向側の機器設定が 1000M・全二重設定になっていない場合があります。

※リンク連動が不要な場合は、設定 SW1 を Auto、SW2 を LPT-OFF 設定でお使い下さい。

リンクアップしない場合は、SW1 を Fix (1000M 固定)、SW2 を LPT-OFF 設定でリンクアップするか確認して下さい。正常にリンクアップしたら対向側の光設定が 1000M 固定設定で動作しています。(光部対向装置の仕様により 1000M 固定設定でしかリンクアップしない場合があります。)

※上記設定は、全て光側に接続する機器の仕様に合わせて全二重でリンクアップするようにお使い下さい。

※設定 SW はゆっくりと切替えて下さい。

設定 SW の切替えをすばやく行くと設定を正常に読み込めない可能性があります。

※Back To Back 接続では使用しないで下さい。

本装置はリピータタイプです。本装置のカスケード接続段数の制約は2段迄ですので、縦続接続する場合は間にブリッジタイプの SW-HUB 等を入れて下さい。

製品保証

本製品の保証内容は以下のとおりです。

保証期間：当社出荷日起算から6年間

保証内容：代替品の無償提供(先出しセンドバック方式)

- * 保証期間内であっても、次の場合は保証外となりますのでご了承ください。
 - ・取扱説明書に記載の使用方法や注意事項に反するお取り扱い及び不当な修理や改造によって生じた故障及び損傷
 - ・仕様書に記載の環境条件(温度・湿度)や使用条件、入力電圧に反するお取り扱いによる故障及び損傷
 - ・ご購入後の輸送、移動中の落下等、お取り扱いが不適当なために生じた故障及び損傷
 - ・火災、地震、風水害、落雷、その他天災地変による故障及び損傷
 - ・本製品を日本国外で使用されたことによる故障及び損傷
- ※本製品は日本国内仕様であり、外国の規格等には準拠していません。
- * 代替品の受付は 9:00～17:00 となります(土・日・祝日および当社休日を除く)。
製品在庫や受付時間によっては当日出荷できない場合があります。
- * 保証期間については、製品に貼付しているロットシールのロットナンバー・シリアルナンバーにて判別可能であるため、保証書の添付はございません。

Lot: ○○△-□□□	○○: 製造年(西暦年下 2 桁表示) △: 製造月(ただし、10 月:X, 11 月:Y, 12 月:Z) □□□: 製造番号(3 桁表示)
Rev.: ◇	◇: リビジョン(アルファベット 1 文字表示)
S/N: × × ×	× × ×: シリアルナンバー(最大 3 桁表示)

例) Lot: 22Z-001 Rev.: A S/N: 50 ⇒ 2022 年 12 月製造、製造番号 001 リビジョン A シリアルナンバー 50

お問い合わせ

製品に関するお問い合わせや代替品の受付は下記連絡先にお問い合わせください。
製品故障の場合、「こんな時は」に従ってご確認いただき、なお異常の場合には異常内容をご連絡ください。

『窓口』 大電株式会社 ネットワーク機器部

コールセンター(テクニカルサポート窓口)  : 0120-588-545 (携帯にも対応)

受付: 8:30～12:00/13:00～17:00
(土・日・祝日および当社休日を除く)

e-mail: dyden-network@dyden.co.jp

受付: 24 時間